

神戸大学大学院海事科学研究科
博士課程後期課程

〔第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期〕
進学者選考要項
2025年4月・10月進学者用

PROSPECTUS
FOR
THE DOCTORAL COURSE

Graduate School of Maritime Sciences
KOBE UNIVERSITY

(Starting in April, 2025/ October, 2025)

神戸大学大学院海事科学研究科について

海事科学研究科には、博士課程前期課程、博士課程後期課程に海事科学専攻（1専攻のみ）が置かれ、前期課程、後期課程の一貫教育が可能となっています。

なお、海事科学研究科博士課程前期課程を修了した学生は修士（海事科学）の学位を取得できます。また、海事科学研究科博士課程後期課程を修了した学生は博士（海事科学）、博士（工学）又は博士（学術）の学位を取得できます。

海事科学研究科博士課程後期課程の学生募集に関する照会先は次のとおりです。

神戸大学大学院海事科学研究科教務学生グループ
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1
電話 078-431-6225（直通）
e-mail fmsc-gakusei@office.kobe-u.ac.jp

海事科学研究科ホームページ <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>

神戸大学ホームページ <http://www.kobe-u.ac.jp/>

＊感染症や自然災害等の不測の事態により、入学者選抜の実施方法に変更が生じる可能性があります。

その際は、海事科学研究科ホームページにその旨を案内しますので、適宜ご確認ください。
特に試験日前日には必ずご確認ください。

目 次

2025年4月・10月進学

神戸大学大学院海事科学研究科博士課程後期課程進学者選考要項

1. 専攻及び募集人員	1
2. 出願資格	1
3. 出願手続	1
4. 選考の方法	2
5. 口頭試問の日及び試験場	3
6. 合格発表	3
7. 進学手続	3
8. 麻しん（はしか）・風しんの感染予防措置	4
9. その他	5
◎ 社会人学生のための教育方法の特例について	6
◎ 長期履修制度	6

神戸大学大学院海事科学研究科の紹介

1. 海事科学研究科の教育研究の理念	7
2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）	7
3. 海事科学専攻の内容	8
4. 博士後期課程教育研究分野，教育内容等 及び研究指導教員（2025年4月・10月入学者用）	9

◎ 添付書類（出願に必要な本研究科所定の用紙一式）

- 進学願書（裏面に履歴書）
- 受験票
- 研究経過報告書
- 研究計画書
- あて名ラベル

2025年4月・10月進学
神戸大学大学院海事科学研究科博士課程後期課程
進学者選考要項

1. 専攻及び募集人員

専攻	募集人員	
	2025年4月進学者	2025年10月進学者
海事科学専攻	(注) 11名	

(注) 募集人員には入学者を含みます。

2. 出願資格

2025年3月に神戸大学大学院海事科学研究科博士課程前期課程及び本学他研究科の修士課程、博士課程前期課程又は専門職学位課程を修了する見込みの者。

(注) 「2025年10月進学」志願者は、上記出願資格の「2025年3月」を「2025年9月」に読み替えてください。

3. 出願手続

(1) 出願期間及び出願方法

募集期	出願期間
第Ⅰ期	2024年6月24日(月)から6月28日(金) 17:00必着
第Ⅱ期	2024年10月15日(火)から10月21日(月) 17:00必着
第Ⅲ期	2025年1月14日(火)から1月20日(月) 17:00必着

持参による場合の受付時間は、9:00~11:30、12:30~17:00(土・日を除く)。
郵送の場合は、書留郵便とし、封筒の表に「博士課程後期課程進学願書在中」と朱書し、受付締切日の17:00までに届くよう送付してください。

(2) 出願書類提出先

神戸大学大学院海事科学研究科教務学生グループ
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1
電話 078-431-6225 (直通)

(3) 出願書類

- (A) 進学願書：本研究科所定の用紙(様式第1号)
- (B) 履歴書：本研究科所定の用紙(様式第2号)
- (C) 受験票(様式第3号)
- (D) 写真：2枚を進学願書及び受験票の所定欄に貼付してください。
上半身・脱帽・正面向きで、出願前3か月以内に撮影したものとします。
(縦4cm×横3cm)

- (E) 博士課程前期課程（修士課程）の修了見込証明書
- (F) 博士課程前期課程（修士課程）の成績証明書
- (G) 研究経過報告書等
 - (a) 研究経過報告書
A 4判の用紙を使用して、和文2,000字程度のもの1部又は、英文1,200語程度のもの1部に本研究科の所定の用紙（様式第4号）を表紙として提出してください。
 - (b) 上記以外の研究発表等の資料があれば提出してください。
- (H) 研究計画書:和文2,000字程度のもの又は英文1,200語程度のものいずれか1部。どのような分野でどのような内容のことを研究しようとしているかが分かるようにA 4判の用紙に記入し、本研究科所定の用紙（様式第5号）を表紙として提出してください。
- (I) あて名ラベル:住所と名前を記入してください。本研究科所定の用紙（様式第6号）
- (J) 返信用封筒:住所と名前を明記し、354円分の切手（注）を貼付した長型3号（縦23.5cm、横12.0cm）の封筒を、1通同封してください。受験票、受験者心得を送付するために使用します。
（注）郵便料金が改定された場合は、改定後の金額分（50g以内の定形郵便物+速達料金）の切手を貼付してください。

[注意事項]

- ① 志願者は、進学願書に志望研究指導教員名を記入してください。志望研究指導教員は「4. 博士課程後期課程 教育研究分野, 研究内容等及び研究指導教員（2025年4月・10月進学者用）」（P. 9～P. 10）から選択してください。なお、進学願書に志望研究指導教員名の記入がない場合、出願書類は受理されません。また、**志願者は志望研究指導教員と密接な連絡をとり、研究計画書を作成してください。**
- ② 出願書類提出後は、記載事項の変更は、原則認めません。

4. 選考の方法

進学者の選考は、学力検査及び提出書類を総合して行います。

学力検査は、口頭試問・質疑応答等によって、以下を中心として行います。

- (1) 研究経過報告書の内容
履修に必要な基礎学力を有しているかどうかを検査します。
- (2) 英語の能力（外国の大学を卒業した外国人の志願者については英語及び日本語）
履修に必要な語学力を有しているかどうかを検査します。
- (3) 研究計画書の内容
学位取得に見合う研究計画であるかを審査します。

5. 口頭試問の日及び試験場

募集期	口頭試問の日	試験場	集合時刻等
第Ⅰ期	2024年8月22日(木)	神戸大学大学院 海事科学研究科 ※	各志願者の口頭試問の場所と時間は、後日に別途通知します。
第Ⅱ期	2024年12月4日(水)		
第Ⅲ期	2025年2月10日(月)		

※神戸大学大学院海事科学研究科

- ・阪神電車にて深江駅下車，南西へ徒歩約10分
- ・JR利用の場合は，甲南山手駅，摂津本山駅又は芦屋駅で下車，タクシーで約10分

6. 合格発表

募集期	合格発表日
第Ⅰ期	2024年9月6日(金) 13:00(予定)
第Ⅱ期	2024年12月20日(金) 13:00(予定)
第Ⅲ期	2025年3月7日(金) 13:00(予定)

合格者には「合格通知書」を送付します。また，海事科学研究科のホームページ(<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>)に掲載します。

なお，電話等による照会には応じません。

7. 進学手続

(1) 進学手続期間・進学手続書類等

「2025年4月進学者」の進学手続期間は，2025年3月中旬の予定です。その詳細については，進学手続に必要な書類等と併せて2025年2月中旬頃に通知(郵送)します。

「2025年10月進学者」の進学手続期間は，2025年9月中旬の予定です。その詳細については，進学手続に必要な書類等と併せて2025年9月上旬頃に通知(郵送)します。

(2) 進学手続書類送付先

神戸大学大学院海事科学研究科教務学生グループ

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1

電話 078-431-6225 (直通)

(3) 納付金

区 分		金 額	摘 要
授業料	半期	267,900円	2025年4月入（進）学者の前期分の授業料については、2025年4月末日までに納付してください。 2025年10月入（進）学者の後期分の授業料については、2025年10月末日までに納付してください。 [在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。]
	年額	535,800円	

(注) 上記の金額は、2024年度の例です。

[注意事項]

- ① 次に該当する者は、進学を取り消されることがあります。
 - (A) 虚偽の申告をした場合
 - (B) 上記の進学手続を完了しなかった場合
 - (C) 2025年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を授与されなかった場合

(注) 「2025年10月進学」志願者は、上記の「2025年3月31日」を「2025年9月30日」に読み替えてください。
- ② 日本国政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は授業料は不要です。

8. 麻しん（はしか）・風しんの感染予防措置

麻しん・風しんのワクチン接種（予防接種）・抗体検査に関する書類の提出について

神戸大学では「麻しん風しん登録制度」を定め、進学後のキャンパス内での麻しん・風しんの流行を防止するため、全ての進学者に次の①、②、③のいずれかを提出していただいています。

- ① 麻しん・風しんのワクチン接種を、満1歳以降にそれぞれについて2回ずつ受けたことを証明する書類（推奨）
- ② 進学年度の過去5年以内に麻しん・風しんのワクチン接種を、それぞれについて1回ずつ受けたことを証明する書類
- ③ 進学年度の過去5年以内に受けた麻しん・風しんの抗体検査の結果が、「麻しん・風しんの発症を防ぐのに十分な血中抗体価（次頁の表を参照）を有していること」を証明する書類

- * ①、②のワクチンは、麻しん・風しん混合ワクチン（MRワクチン）等の混合ワクチンでもかまいません。
- * ①、②では、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていることが必要です。
- * 母子手帳等のワクチン接種記録や接種済証も、接種したワクチンの種類と接種年月日が記載されていれば①、②の書類として使用できます。
- * 既往歴（かかったこと）がある場合は、③を提出するか、ワクチン接種を受けて①か②を提出してください。
- * ③では、次頁の表の血中抗体価の測定方法と測定値が記載され、測定値が同表の判定基準を満たしていることが必要です。血液検査結果票そのものの提出でもかまいません。血中抗体価が不十分な場合には、必要なワクチン接種を受け、①か②を提出してください。
- * ①、②、③の書類の組み合わせ、例えば麻しんについては①、風しんについては③を提出してもかまいません。
- * 麻しん・風しんの血中抗体価が不十分にもかかわらず、病気や体質等やむを得ない事情によってワクチン接種を受けられない場合には、その旨を記載した文書（医師による証明書等）を提出してください。

* 上記のいずれの書類も進学試験の合否判定に用いるものではありません。

提出期限：4月進学者は4月の海事科学研究科健康診断実施日

10月進学者は10月入（進）学者健康診断実施日

提出先：健康診断会場内 麻疹風疹登録受付

麻疹・風疹の発症を防ぐのに十分な血中抗体価の測定方法と判定基準

区分	測定方法	判定基準	備考
麻疹	IgG-EIA 法	8.0以上の陽性	3つの測定方法のうち、いずれかで陽性
	PA 法	256倍以上の陽性	
	NT 法	4倍以上の陽性	
風疹	HI 法	32倍以上の陽性	2つの測定方法のうち、いずれかで陽性 (HI法を推奨)
	IgG-EIA 法	8.0以上の陽性	

- * ワクチン接種歴が条件を満たす場合や追加接種する場合は、抗体検査は不要です。
- * 血中抗体価の測定は、この表の方法によってください。
- * 発症を防ぐのに十分な血中抗体価は、測定方法によって異なります。また、**単に抗体陽性とされる値よりは高い値**なので注意してください。
- * 医療機関を受診する際には、必要なワクチン接種や抗体検査を受けることができるか、予め確認してください。また、この進学者選考要項を医師に提示するなどして必要な証明書を発行してもらってください。(特に、抗体検査を受ける場合は、測定方法と判定基準を確認してもらってください。)
- * 神戸大学保健管理センターのホームページもご参照ください。
(URL : <http://www.health.kobe-u.ac.jp/>)

この感染予防措置に関する問い合わせは	神戸大学保健管理センター	TEL 078-803-5245
	神戸大学学務部学生支援課	TEL 078-803-5219

9. その他

9-1 修学援助の一環として、授業料の免除及び奨学金等の制度があります。

9-2 障害のある者等で、受験上及び修学上の配慮を希望する入（進）学志願者は、**出願の1か月間前までに教務学生グループに申し出て相談してください。**

事前相談は障害のある者等に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害のある者等の受験や修学を制限するものではありません。

日常生活においてごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場設定等において何らかの配慮が必要となる場合がありますので、出願前に相談してください。

相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

9-3 個人情報の取扱いについて

(1) 本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）」の法令を遵守するとともに、「神戸大学の保有する個人情報の管理に関する指針」等に基づき厳密に取り扱います。

(2) 進学者選考に用いた試験成績等の個人情報は、進学者の選考（出願処理、選考実施）、合格者発表、進学手続業務、今後の進学者選考方法及び大学教育改善のための調査・研究のために利用します。なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。

- (3) 出願にあたって提出された個人情報、進学者の個人情報についてのみ進学後の学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金申請）、教務関係（学籍、修学指導）等の教育目的及び授業料等に関する業務並びにこれらに付随する業務を行うために利用します。
- (4) 一部の業務を神戸大学より委託を受けた業者（以下、「受託業者」という。）において行うことがあります。この場合、業務を行うために必要となる限度で受託業者に個人情報を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

◎社会人学生のための教育方法の特例について

近年、大学院における社会人技術者又は研究者の継続研修・再教育及び博士の学位取得の要望が高まっておりますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は博士課程後期課程に在学する3年間はその勤務を離れて修学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

一方、大学院設置基準第14条では、「研究科の課程において教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の修学に配慮がなされています。

海事科学研究科博士課程後期課程では、これらの背景を踏まえ、同条に定める教育方法の特例を実施しています。

その概要は次のとおりです。

1. 授業担当教員の合意を得て、授業を、また研究指導教員の合意を得て、研究指導の一部を夜間及び特定の時期に受講することができます。
2. 研究指導教員が、学位論文の作成が進展しており、企業等に研究に関する優れた施設や設備があり、それを用いた方が成果が上がると認める場合は、勤務する企業等においても研究することができます。

◎長期履修制度

この制度は、本研究科入学者で、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士課程後期課程は3年）で修了することが困難な者が、標準修業年限（博士課程後期課程は3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望するとき、審査のうえ修業期間の変更（延長）及び年間納付授業料額の変更を研究科長が許可する制度です。

博士課程後期課程では標準修業年限（3年）の2倍の6年まで修業年限を延長することができます。

標準的には、3年間の授業料の合計額を長期履修学生として認められた年数で除した額が年額授業料となります。

職業を有している等の事情とは、次のいずれかに該当する者で、標準修業年限内での修学が困難な場合です。

- (1) 職業を有し就業している者（自営業及び臨時雇用を含む。）
- (2) 家事、育児、介護等の事情を有する者
- (3) その他研究科長が相当と認めた者

なお、職業を有している等の事情であっても一定の条件のもとに認められる制度ですので、申請希望者はあらかじめ本研究科教務学生グループに相談してください。

申請手続きの期限は、入学時期ごとにそれぞれ次のとおりです。

入学時期	申請手続き期限
2025年4月	2025年3月4日（火）17：00必着
2025年10月	2025年8月20日（水）17：00必着

神戸大学大学院海事科学研究科の紹介

1. 海事科学研究科の教育研究の理念

海事科学研究科は、国際的で多様な視点と問題解決能力を持つ創造性豊かな研究者・教育者・高度専門職業人を育成するために、国際的に卓越した教育の提供と優れた研究の推進を基本理念としています。本理念に基づき、海事科学専攻に、航海学、海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学の4つのコースを配置し、高度な専門教育の教授と先端研究活動を展開します。これらの教育研究を通じて、海事・海洋に関連する社会・産業分野の発展および世界平和や地球環境の保全に貢献する優秀な人材を育成し、科学の探求や新たな技術の創出に尽力します。

2. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

海事科学研究科後期課程では、航海学、海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学の各コースにおいて、海事・海洋に対する深い理解を育むと共に、国際性、人間性、創造性並びに専門性豊かな指導的人材の養成を目的にしています。そのために、次のような学生を求めています。

●海事科学研究科博士課程後期課程の求める学生像

1. 各コースの専門分野における修士相当の基礎学力、研究能力、プレゼンテーション技術をもち、独創性や創造性の高い研究課題を自ら設定し、意欲的に取り組める人
〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，関心・意欲〕
2. 科学的論理的な思考能力に優れた人
〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力〕
3. 専門知識の展開によって海事・海洋に関連する社会・産業分野や国際活動などへの貢献に強い意欲をもつ人
〔求める要素：知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性・協働性，関心・意欲〕

●入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するために、海事科学研究科博士課程後期課程のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。

一般入試、進学者入試では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

3. 海事科学専攻の内容

海事科学専攻では、つぎの4つのコースで教育研究を行っています。

(1) 航海学コース

経済活動を停滞させない安定な海上輸送を地球規模で実現するために、科学技術的手法の創出によって、「船・ひと・環境・社会」連関システムの管理運営と船舶運航に関する技術革新を図り、海事・海洋分野の諸課題の解決のための、社会科学及び理工学に基づいた航海学分野の専門的知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

(2) 海洋ガバナンスコース

国際物流・サプライチェーンの効果的運用と高度化、及びこれに係る地球環境保全への貢献を目的として、輸送体系を支えるリソースや制度の整備・改善、ならびに戦略的かつ総合的な視点から最適な物流・ロジスティクスシステム構築の計画設計、運用管理及び政策などに関する専門的知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

(3) 海洋基礎科学コース

基礎科学の確かな知識を礎として、地球及び海洋に関わる環境・災害・資源・エネルギー分野の諸課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指した教育研究を行います。

(4) 海洋応用科学コース

工学に基礎を置き、海洋や船舶に関わる産業分野の発展に寄与する新たな学問分野の開拓と技術開発のために、材料工学，流体工学，熱工学，動力工学，電気電子工学，制御工学，情報工学，計算機科学などの専門的知識及び学力を身につけることができるよう、教育研究を行います。

4. 博士課程後期課程 教育研究分野， 研究内容等及び研究指導教員
(2025年4月・10月入学者用)

2025年4月1日(予定)

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
航海学コース	航海学	経済活動を停滞させない安定な海上輸送を地球規模で実現するために、科学技術的手法の創出によって、「船・ひと・環境・社会」連関システムの管理運営と船舶運航に関する技術革新を図り、海事分野の諸課題の解決に資する航海学分野の教育研究を行う。	齋藤 勝彦 教授** 藤本 昌志 教授
海洋ガバナンスコース	ロジスティクス政策科学	国際物流・サプライチェーンの効果的運用と高度化，およびこれに係る地球環境保全への貢献を目的として，輸送体系を支えるリソースや制度の整備・改善，ならびに戦略的かつ総合的な視点から最適な物流・ロジスティクスシステム構築の計画設計，運用管理および政策などに関する教育研究を行う。	杉村 佳寿 教授 竹林 幹雄 教授 西村 悦子 教授 石黒 一彦 准教授 平田 燕奈 准教授 水谷 淳 准教授
海洋基礎科学コース	地球環境科学	沿岸から全球スケールまでの物質循環・海洋生態系を含む海洋環境，大気・水環境，気候変動・自然災害，海洋資源・洋上風力資源などを対象として，地球科学及び環境科学の視点から，現代社会の地球及び海洋に関わる環境・災害・資源分野の諸課題の解決に資する教育研究を行う。	井尻 暁 教授 大澤 輝夫 教授 ゴメスクリストファー 教授 三村 治夫 教授* 林 美鶴 准教授 ブラッドクハインバージュ 准教授 堀江 好文 准教授 山地 一代 准教授
	環境・エネルギー科学	海洋・地球環境保全および脱炭素社会実現のために，分析化学，材料科学，放射線科学，レーザー・イオンビーム科学，極低温科学に基づき，環境汚染物質の分析・分離除去，海洋生分解性材料，海洋環境計測，次世代エネルギー，水素エネルギーなど，環境・エネルギー科学の応用に資する教育研究を行う。	蔵岡 孝治 教授 武田 実 教授** 堀田 弘樹 教授 山内 知也 教授** 金崎 真聡 准教授 谷池 晃 准教授
	数物科学	海事海洋分野に関する自然現象や社会現象，実験等で観測される事象のメカニズムの解明及び社会問題を解決するために，数学・統計学・物理学の理論，数値計算，実験的解析など，海事科学の研究基盤をなす数学・物理学に関する教育研究を行う。	石井 克幸 教授 高坂 良史 教授 赤澤 輝彦 准教授 岩本 雄二 准教授 上田 好寛 准教授

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

「*」は，2026年3月退職予定者を示す。

「**」は，2027年3月退職予定者を示す。

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
海洋応用科学コース	船舶海洋動力工学	海事海洋分野の有効活用に資する新しい基盤技術を創造するため、材料工学、流体力学、熱工学などに基づき、船舶、海洋構造物、船用機関・システム、海中ロボットなどに関する様々な技術開発や応用技術の創出に資する教育研究を行う。	阿部 晃久 教授*** 勝井 辰博 教授 笹 健児 教授 宋 明良 教授 段 智久 教授 藤本 岳洋 教授 劉 秋生 教授
	電気電子情報工学	海事海洋分野の有効活用に資する新しい基盤技術を創造するため、電気電子工学、制御工学、情報工学、計算機科学などに基づく、ロボット制御技術とパワーエレクトロニクス技術の開発、並びに情報通信技術と知能化技術の開発に関する教育研究を行う。	佐俣 博章 教授 長松 隆 教授 平山 勝敏 教授 堀口 知也 教授 若林 伸和 教授 三島 智和 准教授 元井 直樹 准教授 山本 茂広 准教授

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

「***」は、2028年3月退職予定者を示す。

コース	教育研究分野	研究内容	研究指導教員
☆	海洋環境計測科学	海洋現象とその物理過程を計測するための観測機器と解析処理手法の開発及びそれらを用いた海洋環境の分析と、海洋現象のメカニズム解明のための教育研究を行う。	金谷 有剛 客員教授△ 米山 邦夫 客員教授△
☆	海洋底システム学	地球の表面の 2/3 に近い広大な領域を占める海洋底を対象とし、その科学的な理解および社会科学的な関心を深めることを念頭に、これに関連する諸問題の解決に資する教育研究活動を行う。	石橋 純一郎 教授□

出願前に必ず志望研究指導教員と相談してください。

研究指導教員欄の「△」は、連携講座に所属する教員を示す。

研究指導教員欄の「□」は、協力講座に所属する教員を示す。

☆連携講座及び協力講座に所属する教員を志望研究指導教員とする場合、所属するコースについては、当該教員と相談の上、承認を得て「航海学コース」、「海洋ガバナンスコース」、「海洋基礎科学コース」、「海洋応用科学コース」の4コースのいずれかを選択してください。